

■令和6年度「悩みやいじめに関するアンケート調査」設問5・6に係る分析■

分析の目的

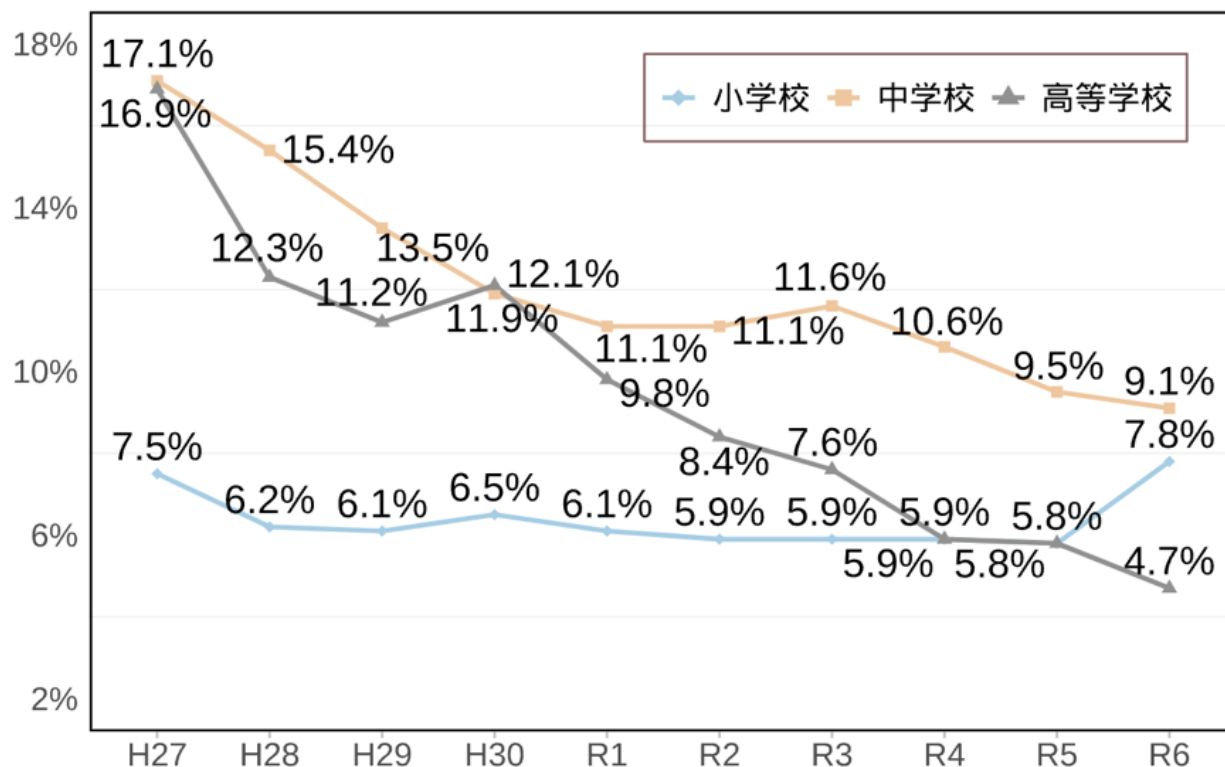
本分析は、「悩みやいじめに関するアンケート調査」のうち、設問5「あなたは、自分がいじめられたら誰に相談しますか。」及び設問6「自分がいじめられたら、“誰にも相談しない”と答えた人に聞きます。それはなぜですか。」の回答結果及び内訳、経年変化を基に実施することで、いじめられた際に児童生徒がどのような相談先を頼ろうとしているか、相談することを躊躇する際にはどのような理由があるのか等を把握するとともに、児童生徒の相談する力を高め、いじめの問題の早期発見、対処の取組に資することを目的とする。

設問5 あなたは、自分がいじめられたら誰に相談しますか。（複数回答可）

- | | | |
|------------|--------------|-------|
| ア 学校の先生 | イ 家族 | ウ 友達 |
| エ 電話相談 | オ スクールカウンセラー | カ その他 |
| キ 誰にも相談しない | | |

【設問5の回答結果】

①「誰にも相談しない」と回答した割合の結果〈校種別・経年変化〉



②回答結果〈校種別・令和5年度との比較〉

(%)

	令和5年度			令和6年度		
	小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校
学校の先生	59.8	40.2	31.8	62.2	47.9	42.3
家族	79.7	66.1	63.9	76.5	65.8	65.4
友達	43.8	63.0	68.8	49.0	61.8	66.7
電話相談	2.7	2.9	4.0	4.4	7.1	6.9
スクールカウンセラー	2.5	3.5	5.1	5.7	6.7	9.5
その他	2.0	1.9	1.6	2.5	2.4	2.0
誰にも相談しない	5.9	10.6	5.9	7.8	9.1	4.7

※令和5年度より回答割合が増加した回答結果は黄色、5%以上増加した回答結果はピンク色で表示した。一方、令和5年度より回答結果が減少した回答結果は水色で表示した。(ただし、「誰にも相談しない」については、回答結果が増加した箇所は水色、減少した箇所は黄色で表示した。)

【設問5の回答結果の分析】

①「誰にも相談しない」と回答した割合の結果〈校種別・経変変化〉について

- ・全体の傾向として、平成27年度から令和6年度に至るまで回答割合は減ってきており、いじめられた際には、他者に援助を求めることが大切であることについて理解を深めた児童生徒が増えてきていることが要因であると考えられる。いじめの深刻化を防ぎ、児童生徒の命を守るという視点から、今後も、児童生徒が相談しやすい体制の充実を図るという方向性は、一層重視していく。

②回答結果〈校種別・令和5年度との比較〉について

- ・令和5年度と比較すると、回答割合が増加した項目が多かった。先生や家族、友達などの身近な存在のほかにも様々な相談先があることについて知る児童生徒が増えてきたことが要因として考えられる。特に、スクールカウンセラーについては、令和6年度より小学校の年間配置時間数を69時間から140時間に増加したこと、1人1台端末の心の健康観察アプリを活用してスクールカウンセラーにつながりやすくなった学校が増えたことも要因の一つと考えられる。
- ・「誰にも相談しない」の回答結果について、令和5年度と比較したところ、中学校及び高等学校は減少したが、小学校は増加した。次の設問6の分析結果等を踏まえ、誰かに相談することの大切さを児童生徒に伝えるとともに、児童生徒自身が他者に援助を求めることの大切さを改めて理解したり、様々な相談先があることについて知ったりする機会を設けるなど、すべての児童生徒が安心して相談できる体制づくりを引き続き進めていく必要がある。

設問6 自分がいじめられたら、“誰にも相談しない”と答えた人に聞きます。それはなぜですか。(複数回答可)

ア 誰に相談するとよいかわからない

イ 家族に心配をかけたくない ウ 弱い立場だと知られたくない

エ 相談したことが他の人に知られることが心配

オ 相談したことに対する仕返しがこわい

カ 仲間外れになるのが心配 キ 相談してもよくなるとは思えない

ク 今の状態よりも悪くなることが心配 ケ うまく伝えられない

コ 自分で解決したい タ その他

【設問6の回答結果】

○回答結果〈校種別〉

(%)

	令和5年度			令和6年度		
	小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校
誰に相談するとよいかわからない	7	8	8	27	19	12
家族に心配をかけたくない	20	16	11	43	32	17
弱い立場だと知られたくない	3	2	3	14	9	5
相談したことが他の人に知られることが心配	5	5	2	25	19	8
相談したことに対する仕返しがこわい	2	1	1	23	16	3
仲間外れになるのが心配	1	1	1	17	10	3
相談してもよくなるとは思えない	6	12	21	26	40	34
今の状態よりも悪くなることが心配	4	4	3	25	22	12
うまく伝えられない	13	10	8	39	31	18
自分で解決したい	32	35	39	27	28	32
その他	8	6	6	13	15	20

※令和5年度は、設問5で「誰にも相談しない」と回答した児童生徒に対して、最も当てはまる理由を1つ、個別に各学校において聞き取った結果について、数値は回答した児童生徒の総数を100%として、各項目の割合を示している。

※令和6年度の調査は1人1台端末を用いて実施し、設問5で「誰にも相談しない」と回答した児童生徒が、問6で問5の理由について複数回答したもので、数値は回答した児童生徒の総数を100%として、各項目の割合を示している。

※数値は、いずれも小数第1位を四捨五入しているため、令和5年度は、合計しても100%にはならない校種がある。

※令和6年度の回答結果について、どの校種においても回答割合が二桁となっている項目については、「その他」を除いて水色枠とした。

【設問6の回答結果の分析】

- ・「誰に相談するとよいかわからない」「家族に心配をかけたくない」の回答割合は、どの校種においても二桁となっている。家族は、共に悩み、成長を支えてくれる存在であることを伝えるとともに、小学校4年生以上に配付している相談窓口周知カードなどを参考に、様々な相談先があることについても伝えていく。(※資料1)
- ・「相談してもよくなるとは思えない」「今の状態よりも悪くなることが心配」の回答割合は、どの校種においても二桁となっている。過去の相談で失望体験があれば、そのことも踏まえ、相談したことを後悔させないような相談体制の充実を図る。特に、いじめの相談にあたっては、いじめの行為が止んでいること(少なくとも3か月以上を目安とする)の確認など、いじめの解消に至るまで対応する必要がある。
- ・「うまく伝えられない」の回答割合は、どの校種においても二桁となっている。相談することの重要性を見童生徒に伝える際は、自分から他者にうまく相談することができない見童生徒もいることを踏まえ、全ての市立学校に導入している1人1台端末による心の健康観察アプリの「相談ボタン」を活用してもよいことを伝えるなど、様々な相談方法があることを伝える。また、アプリによる見童生徒の健康状態の把握や、アプリには表れにくい見童生徒の様子や心の変化を捉え、心身の不調が見られる見童生徒に対しては教職員から声を掛けるなど、見童生徒の実態を踏まえて関わることも、引き続き重要である。
- ・「自分で解決したい」の回答割合は、令和5年度はすべての校種において最も高かったが、令和6年度は回答割合の順位が下がっている。自分で解決しようという見童生徒の気持ちを尊重しつつ、他者に頼ることは、視野を広げ、心を成長させることにつながるなど、他者に援助を求める大切さが伝わってきている。

【参考資料】

あなたの相談先は?

●子どもアシストセンター
TEL: 0120-66-3783 (通話無料)
メール: assist@city.sapporo.jp

●虐待対応ダイヤル(通話無料)
TEL: 局番なし 189(いちばやく)

●札幌弁護士会子どもの権利110番
TEL: 011-281-5110

●性暴力被害者支援センター北海道SACRACH(さくらこ)
TEL: 0120-8891-77 (通話無料)
TEL: 局番なし #8891 (はやくフンストップ)
メール: sacrach20191101@leaf.ocn.ne.jp

●体罰・性被害相談窓口
TEL: 011-272-6034
メール: taibatsu.seihigai@city.sapporo.jp

●親子のための相談LINE
QRコード

安心して相談を
【相談窓口周知カード】

あなたは、かけがえのない大切な存在です。
自分のことや友達のこと、心配なことがあったら、一人で抱え込まないで相談してください。
家族や友人、先生、スクールカウンセラーはもちろんのこと、学校以外にもあなたをサポートしてくれる相談先があります。多くの大人をぜひ頼ってください。

あなたの相談先は?

●いじめ電話相談(少年相談室)
TEL: 0120-127-830 (通話無料)

●24時間子供SOSダイヤル
TEL: 0120-0-78310 (通話無料)

札幌市教育委員会

いじめのサインチェックポイント

気になる様子が見られるときには、大人も子どもも学校に相談してください。

本人の様子

☐元気がなく落ち込んでいる
☐視線を合わせず、おどおどしている
☐表情が暗く、硬い
☐沈み込んだり泣いたり情緒不安定
☐登校を嫌がるそぶりが見られる
☐傷やあざ、鼻血を出した跡がある
☐大人に何かを訴えたような態度
☐服が汚れたり破れたりしている
☐朝、腹痛や頭痛を訴え登校を渋る
☐必要以上のお金を欲しが
☐食欲がなくなる
☐寝付きが悪くなったり、寝不足が続いたりする

☐自分の部屋に閉じこもり、遊びに行かなくなる
☐学校や友達のことを話したくない
☐些細なことでイライラしたり、物に当たったりする
☐突然連絡が来て外出する

友達と関わる様子

☐仲間に入れず一人でぼつんとしている
☐他の子どもに冷やかされたり、悪口を言われたりする様子が見られる
☐他の子どもに指示されたり、威嚇されたりする様子が見られる
☐おに遊びで常におにになるなど、遊びの中で不自然な状況が見られる
☐集団対一人の構図が見られる

子どもたちをたくさん目で見守ることで、変化にいち早く気づき、不安や悩みの解消につなげましょう。

(資料1 令和6年度版相談窓口周知カード)